

1 テーマ設定

(1) 大学の役割

第一は学生の「成長を促すこと」だという意見が大半を占めた。つまり学生の主体性を引き出し学生が自ら成長する環境を整えることが重要である。

第二に社会に出たときに困らない程度に「社会人基礎力を養うこと」も社会から求められている。

(2) 現状・問題点

目的目標を持たずに入学する学生や社会人基礎力が乏しく受け身な学生が多い。

そのため、各大学で様々な取り組みを行っているが成果がなかなか出ていない。

教職員は大学改革や様々な新しい取り組みに追われ学生へのサポートに十分な時間を費やすことができない。教員と職員また部門間のコミュニケーションが不足している。以下教職員側と学生側に分けて列挙する

●教職員の問題点

- ・多忙化により教育にかける時間が減っている
- ・大学方針が全教職員に落とし込まれていないことで、大学の方針を理解して臨機応変に働き方を変えずにないことがある。
- ・教職員間、また部門間のコミュニケーション不足
- ・縦割り組織の弊害（教員と職員、各所属）
- ・初年次教育を実施する人材の不足
- ・学生へのアドバイザー機能不足（質と量）

●学生の問題点

- ・学生のボッチ化
- ・学生のモチベーション低下
- ・学生の多様化

以上の点を検討した結果、教職員と学生のそれぞれに問題があるが、「まずは教職員が変わらないと学生は変わらないのではないか」という結論に達した。

(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割である学生の成長のためには、目的や目標をもって生活をおくることが必要であり、そのためには学生に初年次から目標をもって取り組むことを習慣つけさせることが必要である。

しかしながら、学生が自力で進められていないのが現状であるため、教職員が協働して学生の成長促進のために様々な機会を提供する必要がある。

現在、各大学で実施されている初年次教育などの新しい取り組みが成果を生み出していない現状を鑑みると、「今まで以上に教職員が協働して一人ひとりの学生の成長促進に取り組む必要がある。」と考えた。

2 解決策の検討

上記の問題点を解決するためには以下の解決策が必要であると考えた。

- ・教職員の立場部署を超えたコミュニケーションの促進（大学方針の理解共有）

- ・教職協働による初年次教育の企画・実施
- ・全教職員内での学生情報の共有化
- ・アドバイザー機能の強化
- ・業務改善による時間の創出

様々な解決策を検討した中で、最優先して実施すべき解決策を『全教職員アドバイザー化計画』とし具体的にステップを踏んで提案する。

『全教職員アドバイザー化計画』

●Step 1 ~教職員間の協力意識の向上~

- ・教職員のオフサイトミーティング
※正式な会議ではなく、情報や意見交換をする場

- ・FSD研修の実施（教職員合同研修会）

●Step 2 ~教職員全体のサポート力の向上~

- ・全教職員へのアドバイザー研修
※教職員全員が個々の専門分野を生かし、学生に寄り添い、「気付き」を促すことができる人材（メンター）へ

- ・学生情報の共有

●Step 3 ~よりよいサポートを学生に~

- ・新たな初年次教育の提案
- ・教職員による進捗チェックを行い、進捗状況が思わしくない学生へのフォローアッププログラムを提供する。（教職員の中から学生の課題に応じたアドバイザーを選定）

例）学生自身に目標設定（勉学・生活面を問わない）をさせる初年次研修を実施した半年後に宿泊研修にて達成度の確認を行い、不十分と思われる学生に対して継続してフォローを行う。

<更なる展開>

「学生同士で刺激し合う事」は教職員によるサポートと同じくらい重要であるという共通認識に至り、学生の自主性に任せるだけでなく、（上記Stepがある程度進んだ段階で）教職員がそのような場や仕組みを創出していく事で更なる効果（学生の成長）が期待できると考えた。

（例）

1. 学生同士のディスカッションの場作り
2. 学生主体の複数プログラム導入（入学式企画、初年次教育PJへの学生参画など）
3. 学生交流ポータルサイト（サークル交流、学生情報発信の場）等

3 まとめ

班員で共有した「課題」や「気付き」によりテーマを設定し、問題解決策から今後の展開までを検討した。それぞれの大学の現状を挙げて行く中で、学生が大学生である事に意味を見出し、何らかの付加価値を付けて（成長して）卒業するためには、教職員が協働してサポートする必要があることを改めて実感した。アドバイザーの対象範囲（専任・非正規）や専門性についての質問があったが、よりよい関わり方や、教員を上手く巻き込む方法を模索していくことが今後の課題である。

以上